

# 令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果

令和5年 9月 8日  
京都市立衣笠小学校  
校長 畑 武巳

令和5年4月18日に、本校6年生42名を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語・算数の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力の関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

## 総 合 結 果

国語、算数の2教科ともに、全国平均を大きく上回り、全体的にはとても良好な結果でした。

特に、両教科ともに、「記述式」での回答で、正答率が全国平均を大きく上回っていました。また、無回答率も全国平均は下回っており、このことから、自分の考えを言葉や図、式などを使って説明することへの抵抗感はそれほどなく、自分なりに表現しようとする意欲を感じました。また、児童質問紙調査からは、ご家庭でも1時間以上学習している児童が70%以上おり、予習や復習など、日々の積み重ねができていたことがわかり、基本的な知識・技能の習得に一定の成果を上げていることがわかります。

学習に向かう意欲づけや効果的な課題の提示の仕方などを工夫することで、生き生きと自分の思いを表現できる子どもが増えていくよう、引き続き、日々の授業実践を進めていきたいと思っています。

## 国語科より

ほとんどの問題で、全国平均を大きく上回り、全体的にはよくできています。

ただし、「書くこと」の分野では、全国平均を上回っているものの、必要な情報をうまく読み取ることができずに、条件に合わせて書くことができていない児童も少なくありません。

また、「文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる」趣旨の問題のみ、全国平均を下回っていました。日常生活で、児童は「観察文」「報告文」「推薦文」など、様々な書きぶりの文章に触れていますが、それぞれの特徴について理解し、活用していくことができるようにすることが今後の課題です。

## 算数科より

「記述式」の問題で、正答率が全国平均を大きく上回っていました。求め方を筋道立てて記述することができる児童が増えてきていることは嬉しいことです。低学年から答えを出すだけではなく、数図ブロックを操作したり、求め方を図や言葉で説明する活動を取り入れたりすることで力がついてきたのかと思います。

領域別では、「図形」において、正答率が40%を下回る問題が数問ありました。図形を構成する要素などに着目して図形の性質や面積について考察する問題でしたが、図形をよく観察し、正しく判断することができなかつたり、知識をうまく応用できなかつたりしたことは、今後の課題です。

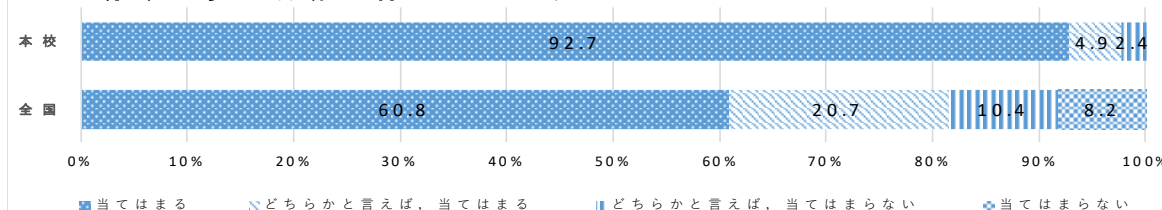
以上のような結果から、学校でも授業を通して改善に努めていきます。

## 保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより学力は定着していくものです。引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力お願いいたします。

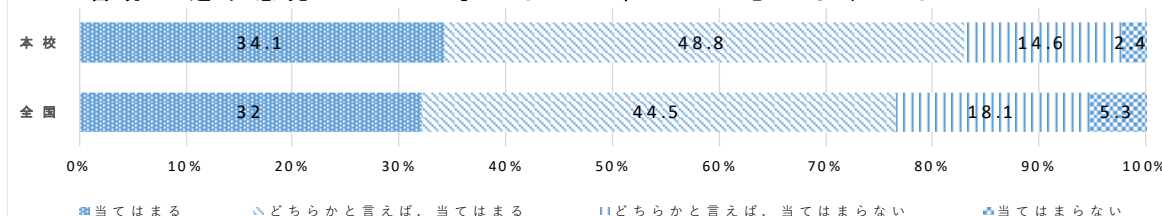
## 児童質問紙調査から

### Q. 将来の夢や目標を持っていますか？



全国平均と比べ、「当てはまる」と回答した児童が大きく上回っています。夢や目標をもつことは、これからの人生を豊かにし、学び続けるための大きな原動力になると思います。目標を達成するためには何をしなければいけないのか、今の自分には何が足りないのかと、自分のことをふり返ることで、成長につながっていくと思います。学校においては、学習面や生活面での一人一人のよさをしっかりと認め、自己肯定感を高めていくことで、なりたい自分に少しでも近づいていけるように支援していきたいと考えています。

### Q. 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか？



本校の校内研究では、自分の思いをいきいきと表現する姿を目指して、日々の授業での話し合い活動を工夫するなど、授業改善に取り組んでいます。その成果として、自分と違う意見について考えることが楽しいと感じてくれていることは大変うれしいことです。多様な考え方を認め、自分の考えに取り入れることができると思の幅が広がっていくと思います。今年度からは、月に1回、朝学習で「トーク de タイム」というテーマに沿って友だちと対話する時間をつくっています。思いを伝える楽しさや大切さを少しでも感じてほしいと思います。

## 全体を通した本校の成果と課題

本校では、「人を大切にし 主体的に学ぶ子の育成」という学校教育目標のもと、保護者や地域の皆様の協力を得て、教職員一丸となって取組をすすめています。

その中の「主体的に学ぶ子」が具体的に目指すことは、「意欲的に学習に取り組む態度」のほか、「粘り強く学ぶ姿勢」「豊かに表現する力」などを身につけることにあります。「あっ、そうか。」「できた。」など学習中のつぶやき、最後まで集中して学習する姿などが目指している姿の一つです。

日々の授業の様子を見てみると、どの学年も課題に対して前向きに取り組む姿が多く見られます。児童質問紙調査でも、80%以上の児童が、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると回答しています。

しかし、これからの社会の中では、自分の持っている知識をもとに、それをどう活用していくかが求められています。複数の情報を読み取り、条件に合わせて筋道立てて表現したり、新しい考え方を生み出したりするための思考力や判断力・表現力の育成が不可欠です。低学年の間から、ただ正答を求めるのではなく、課題に対し、自ら考え、グループや学級で話し合いながら試行錯誤を繰り返しつつ、課題の解決にせまっていくような授業を進めていけるように、授業改善に努めていきたいと思っています。